



介護離職ゼロの現実…

政府は『介護離職ゼロ』を掲げているが、親の介護でやもなく仕事を辞める人が年間に約10万人いるということから、特別養護老人ホームを増やす整備計画が進められている。

運営する側は、介護をする人材を確保することに頭を痛めている。更に5年後に団塊の世代が75歳になる頃、人材不足は一層厳しくなることが予測される。

安倍首相が2020年に向けた経済成長の推進力となる新たな安心につながる社会保障として「介護離職ゼロ」(介護を理由とした現役 世代の離職を減らす)の目標を掲げた。



仕事と介護の両立

私は、103歳の祖母の介護をしながら『ケアホーム希望』で社員として働き、ケアマネとして利用者のサービスを家族と調整したり介護現場でも利用者のケアを行っています。

私が住んでいる三鷹市には、看護小規模多機能型居宅介護『ケアホーム希望』のような在宅サービスがありません。

幼い頃、私たち孫を可愛がって育ててくれた祖母は頑固で、「施設には入らないわよ！」と、外出することを嫌うため、週に2回のデイサービスの利用と、私が仕事の日、1日2回の訪問介護サービスを利用していますが、1つの事業所では人材が不足しており、3ヶ所の事業所から交替でケアに入ってくれているのが現状です。各事業所によってケア方法も違い、うまく連携が図れていないことがあります。

ある日、仕事を終え、帰宅すると熱があり、主治医に連絡してみると「インフルエンザかもしれないから近くの病院に受診するように」と…。タクシーにやっと乗せ、病院に行くと「高齢なので脱水でしょう…。水分を摂ってください。」の一言のみ。



点滴もしてもらえず、「おばあちゃんお水飲んでよ」と、きつく言った時には悲しくて涙が止まりませんでした。

私は、介護の仕事しながら祖母の介護をしているので、『ケアホーム希望』の利用者家族の気持ちが一番わかると思います。ゴールがいつなのかわからない介護に疲れるのは当たり前です。だからこそ看護小規模多機能型居宅介護『ケアホーム希望』のようなサービスが増えて欲しいと思います。そして、利用者とその家族には幸せで、悔いの残らないよう介護をしてもらいたいと思い、毎日頑張っています。



自宅で介護している様子

看護小規模多機能「ケアホーム希望」とは…

定員29名の利用者さんが「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」を臨機応変に組み合わせ、顔なじみの職員が24時間365日対応しています。



送迎

今日はやけに寒いなあ…



外出



「通い」のサービス



体操



レク活動



相談



訪問看護

理学療法士による専門的リハビリ



通いの時の健康管理は看護師に任せて！

入浴



高齢の祖母がこのまま家で一人暮らしが続けられるか心配で…

お父さん
看護師さんが来てくれるから安心だね



訪問介護



いつもの場所だから安心して眠れる



「泊まり」のサービス

私は、昨年体調を崩し入院。足腰が弱り、一人暮らしなので不安になり、老健に入所しました。『ケアホーム希望』には、退所後よりお世話になっています。

今回、夕方から血尿になり、びっくりし『ケアホーム希望』に連絡したら、看護師と連携している医者を持ってきてくれて、検査をし薬をもらいました。次の日には「泊まり」のサービスを利用し、点滴から抗生剤の内服等ですぐに治りました。今まででは考えられないサービスです。

娘も働いていてすぐには来れないので、とても助かっています。

